

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

群馬県 昭和村

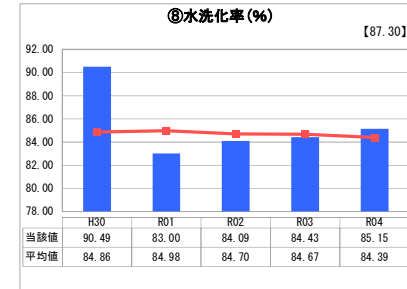
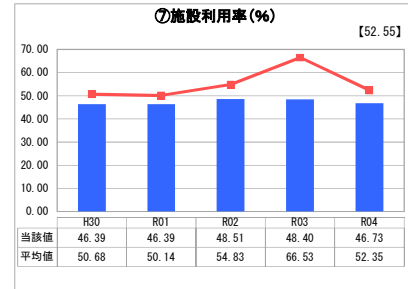
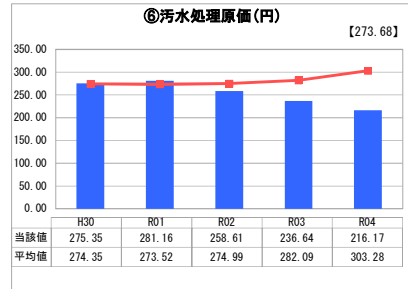
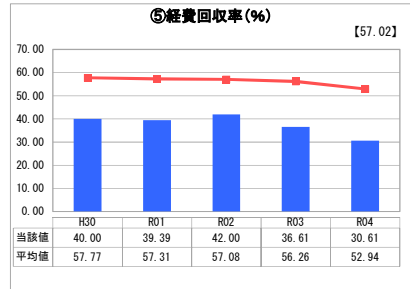
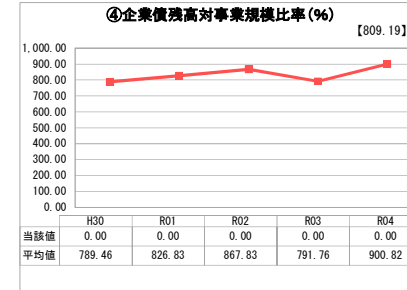
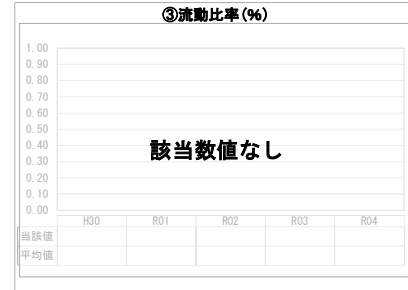
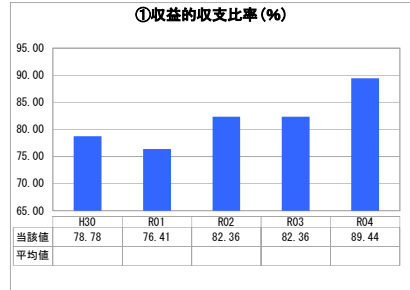
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金 (円)
-	該当数値なし	71.34	100.00	2,530

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
7,007	64.14	109.25
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
4,977	1.84	2,704.89

**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、事業規模が小規模なため単年度の変動が大きく、年度により数値にばらつきがある。現状、一般会計からの繰入金や基金取り崩しで費用を賄っている状況にあり、使用料が費用の約4分の1の状態を解消することは急務であり、使用料を改定し、必要な経費を賄うことが急務であると考えている。

④企業債残高対事業規模比率は、一般会計からの繰入金で賄っており、0.0%である。

⑤経費回収率は、類似団体平均値を見ても20ポイント程度下回っており、使用料に反映すると3割~4割程度の値上げが必要になるものと考えている。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値を下回った状態ではあるが、経費削減を今後も継続し、必要な設備投資は行い、施設の長寿命化を図ってきたい。

⑦施設利用率は、現在平均値を下回っている状態であるが、各施設ともに当初設定した処理規模が、右肩上がりの成長を想定した施設であることから、今では設備過剰という面も否定できない。少子高齢化は避けられないことから施設の統廃合も視野に入れた検討が必要になると考えている。

⑧水洗化率は、人口の減少や次の世代が住まない高齢者世帯の増加によりほぼ横ばいで推移している。そのため使用料の見込みが一般会計からの繰入金に依存した経営となっている。

### 2. 老朽化の状況について

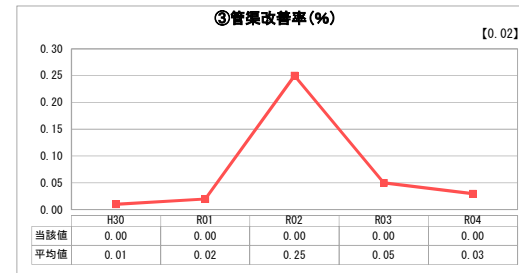
設備の整備は平成8年から平成16年に集中的に行ったため、老朽化時期も集中することが想定される。

平成22年度に策定した長寿命化計画を基に順次、施設整備のメンテナンスを進め、長寿命化を図るべく修繕を進めている。

適切なストックマネジメントを行い、長期に渡り安定した状態を保っていききたい。

また、令和5年度に維持管理適正化計画を策定し、効率的な維持管理を実施していく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

地形により4地区となっている農業集落排水事業は、その人口カバー率が71.3%で、村の下水道事業の根幹をなすものである。

将来的には、少子高齢化による人口の減少や利用者の減少により適切な維持管理費を賄うことがますます困難になることから、施設の統廃合なども含めた検討が必要になる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。